

## 入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和元年度第4回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

### 記

開催日時 令和2年2月18日（木） 10：00～11：35

会 場 北九州市庁舎15階 15C会議室

## 令和元年度第4回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

### 1 会議名

令和元年度第4回北九州市入札等監視委員会

### 2 開催日時・会場

開催日時 令和2年2月18日(木) 10:00～11:35

会場 北九州市庁舎15F 15C会議室

### 3 出席委員(五十音順)

今泉 恵子、田籠 亮博、中尾 美佐、松田 亨、森江 由美子

### 4 議事

#### (1) 令和元年度第3四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

#### (2) 令和元年度第3四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和元年度第3四半期に契約をした工事の中から、森江委員が10件(契約課契約分8件、東部整備事務所分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

前回の委員会で、共同企業体を対象とする工事の総合評価では、構成員が協力し合って提案する技術提案以外の項目は、代表者しか評価していないことについて委員より意見が出されていた。これを受け、事務局より現在の評価の考え方について説明がなされた。

(答) 本市では案件ごとに特定の共同企業体を組む方式をとっているが、その共同企業体の代表者は工事の中心的な役割を担い、出資比率においても構成員中最大でなければならない。工事の品質の確保には代表者が大きな影響を及ぼすと考えられ、総合評価で評価する技術者も代表者が配置する監理技術者である。よって、工事の中心的役割を果たす代表者を評価しているというのが本市の現在の考え方である。国は総合評価方式を推し進めているが、共同企業体の評価の考え方についても指針を示しておらず、各自治体に任されているため、国の今後の考えを注視しながら、研究していきたいと考える。

(問) 総合評価、一般競争入札による管工事で、落札金額は6者のうち2番目に高かった業者が落札しているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 総合評価落札方式を採っているため、金額と技術点の両面で評価されるが、今回は結果的に技術点が1番高かった共同企業体が落札している。この共同企業体は技術点のうち、技術提案の施工計画の点数は低いが、ISO取得と人

材育成の点数が高くなっている。人材育成は正規雇用が減っていないか、また若年者を何人新規雇用しているかで加点される。

(問) 施工計画や配置予定技術者の技術力の点数は、他の業者の方が高くなっている。ISO 取得や継続雇用、新規雇用の確保といったところの配点が大きくなっているため、本来の技術力や監理技術者の評価をみるという主旨がぼやけている感じがする。

(答) 公共工事の質を確保するのが総合評価の設立当時の主旨だったが、近年建設業界は担い手不足であることから、人材育成も重要として評価項目に入れるようになった。工事の品質を確保することと業界の人材を確保することは共に大事であるが、総合評価の配点においては案配が難しいところである。

(問) 一般競争による土木工事で、予定価格2億円程度の同じ道路改良工事だが、総合評価落札方式を採る、採らないで分かれているため経緯を知りたい。

(答) 総合評価が必要かどうかは、選定委員会で工事の規模、難易度、特性という点について精査を行い決定している。今回総合評価落札方式を適用することになった工事は、専門的な工法が必要であり、現場で工夫しながら施工しなければならないため、技術的に難しいと委員会が判定した。それに対してもう一方は、金額は大きい標準的な工事であったため、総合評価を適用しなかった。

(問) 一般競争入札による機械器具工事だが、1者入札で落札率が95.44%と高くなっているため、1者入札となった背景を含めて詳しい入札状況を知りたい。

(答) 老朽化が進んだ屋外エスカレーターの更新工事であるが、屋外エスカレーターは需要が少なく、設置できる業者が少ないため、今回は1者のみの応札となり、落札率も高くなった。

(問) 指名競争入札による機械器具工事で、落札率が63.51%と低くなっているため詳しい入札状況を知りたい。

(答) 工場製作物の割合が大きく、最低制限価格を設けない工事であったため、受注意欲のある業者は、予定価格を下回る価格で応札してきた。企業努力が働いた結果であり、品質的にも検査を受けるので問題はないと考える。

(問) 指名競争入札による建築工事で、指名業者数が69者と多い割に、落札率が100%になっているため詳しい入札状況を知りたい。

(答) 業者の受注意欲が期待できそうにない工事であったため、多数の業者を指名した。結果は4者が応札してくれたが、そのうち3者は最低制限価格を下回ったため失格となり、予定価格で応札した残りの1者が落札したため、落札率が100%となった。

(問) 指名競争入札による電気通信工事で、電気通信工事の中では予定価格も落札率も高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 病院関係の高度な性能を要する機器の工事であるため、高額になっている。また、応札意欲が高かった多数の業者が最低制限価格を下回り失格となったことで、落札率が高くなった。

(問) 指名競争入札による電気工事で、落札率が100%になっているため、詳しい入札状況を知りたい。また、今回学校の特別教室の工事が多数出ているので、その理由があれば知りたい。

(答) 近年酷暑が続く中、児童の健康管理のために国が特別教室にもエアコンを取り付けていく方針を示したため、本市では今年度中学校の音楽室と小学校の理科室の併せて57件の工事を行うこととした。入札不調を避けるために複数の学校の工事をまとめて発注したものの、やはりB・Cランクで発注件数が18件と多くなったこと、予定価格も高くなかったこと、また当該工事は4校をまとめて発注しており手間がかかることから、予定価格の応札でない業者にとって難しい工事であったと考える。

(問) 随意契約による建築工事で、特命ではなく1者の随意契約になっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 規模が小さい割には耐震という大事な工事であるために、業者からは敬遠されたと考えられる案件であり、1度入札不調になっていた。2回目の入札も1者のみの応札で不調となったが、2回競争入札に付して落札者がない場合には、随意契約に移行することになるため、応札してくれた1者と交渉し、随意契約を行った。

(問) 指名競争入札によるとび土工工事で、落札率が100%となっているため詳しい入札状況を知りたい。

(答) 1回目の入札では応札者がなかったため、入札不調となった案件である。2回目の入札では、手持ち工事を持っている2者を追加して入札を行った結果、6者が応札したが、1者が最低制限価格を下回り失格となり、残り5者は予定価格と同額での応札であった。5者でくじ引きを行い落札に至ったものの、落札率は100%となった。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名業者数が多いため詳しい入札状況を知りたい。

(答) 1回目の入札では門司のBCランクの19者を指名したが、1者のみの応札であったため入札不調となっていた。よって、再入札では範囲を広げ門司区、小倉北区、小倉南区3区のBCランクを指名したため83者となった。結果は10者が応札し、落札率は標準的な数字となった。

※ 次回の委員会は、令和2年5月28日(木)に開催することとなった。